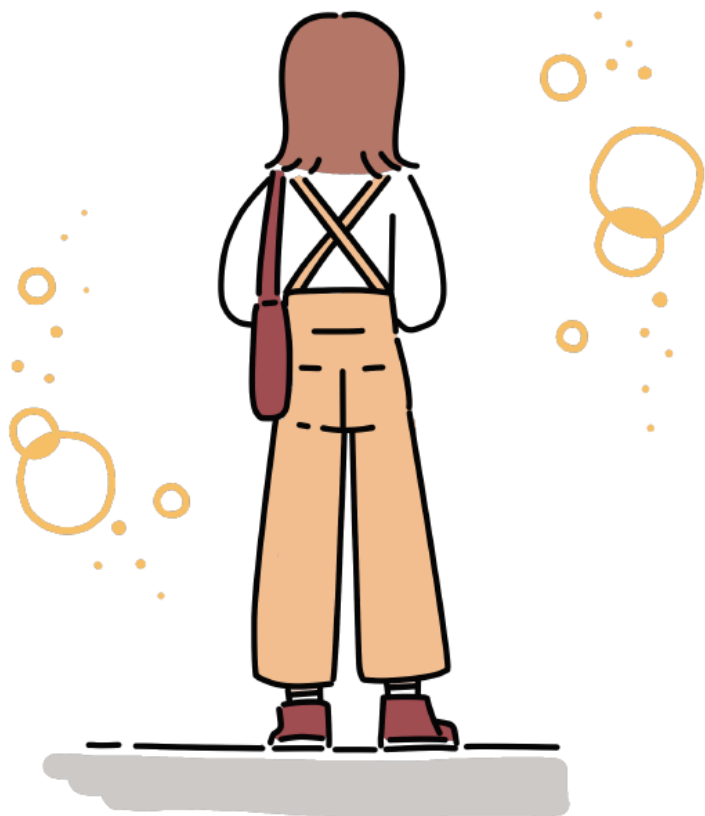


子どもと里親の物語Ⅱ

わたし たよ  
私の頼れるひと



港区児童相談所 フォスタリングチームみなと 作



わたし げんざい さい びようし せんもん  
私は、現在19歳で、美容師の専門学校に通っています。

これは、これまで大変なことが沢山あったけど、

今は美容師になるという夢に向かって

がんば わたし  
頑張っている私の話です。

物心ついたときから母と2人で暮らしていましたが、  
中学に入った頃から母がほとんど家に帰ってこなくなりました。  
身の回りのことも家のことも自分でやるしかなくて、  
何だか全部が嫌になって、学校に行けなくなりました。



そんな私の状況わたくし じょうきょうを知った学校の先生が  
児童相談所れんらくに連絡まごしてくれて、保護ほごされました。

進路を決める大切な時期だったし、  
友達ともと離れたくない気持ちもあったので  
これまでの中学校じゅくや塾じゅくに通い続けられるようにと  
児童相談所の人と相談して、  
近くちかきの地域ちいきに住む里親さんの家で  
生活することになりました。



里親さんの家に来て最初の1カ月くらいは、  
「どうして自分だけこんなことになるのか」と  
気持ちの整理ができなかったし、  
里親さんとどう関わったらいいのかもわからなくて、  
ずっと部屋にこもっていました。

話しかけられても聞こえないふりをしたり、  
はんこうてき たいど  
反抗的な態度をとったりしてしまいました。

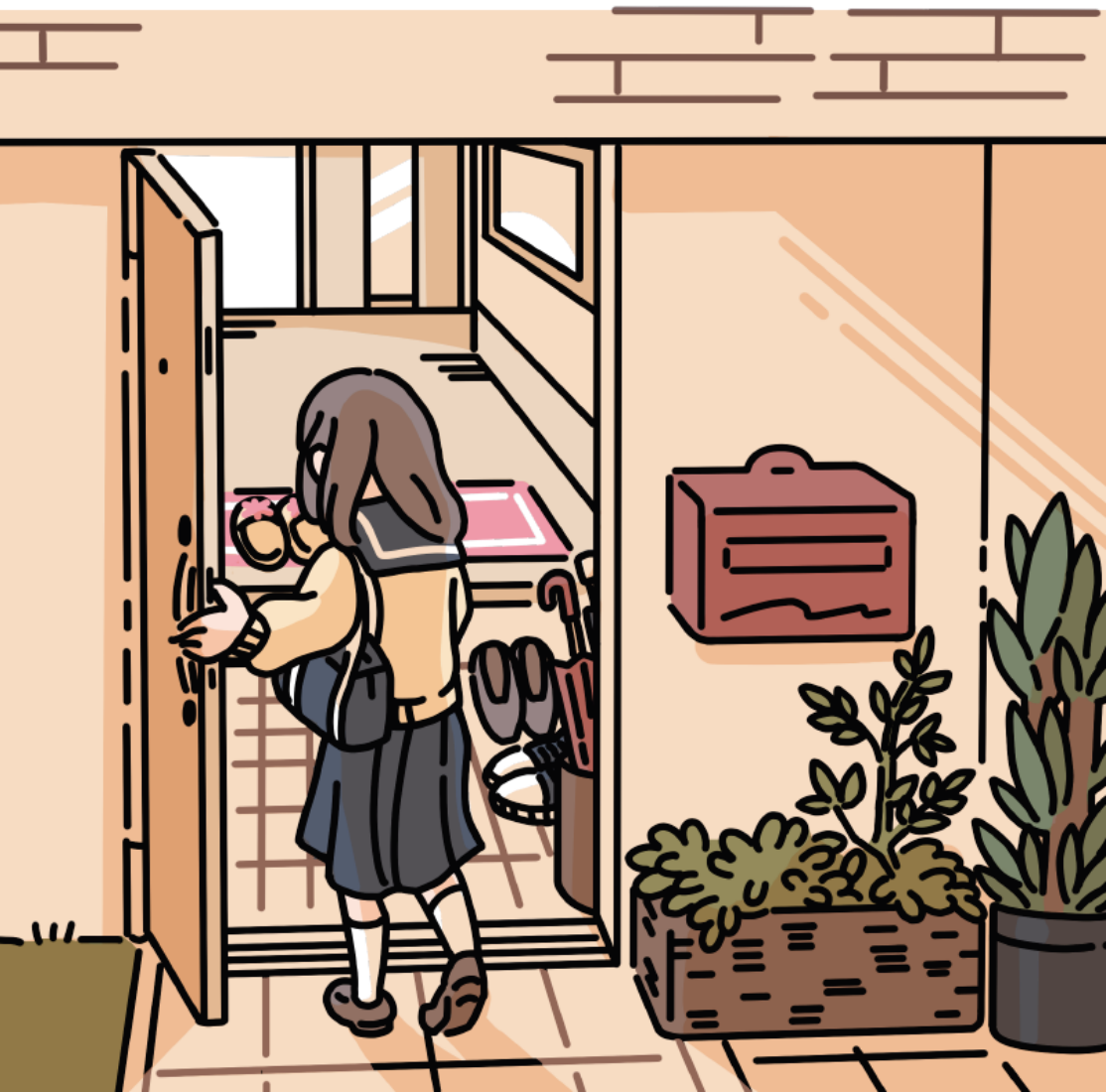


それでも里親さんは毎日私わたしに声をかけてくれて、  
私わたしのためにおいしいご飯やあたたかいお風呂ふろを  
用意してくれました。



私わたしの辛つらかったり悔くやしかったりする気持ちを  
分わかろうとしてくれて、間違まちがったことをしたときも、  
まず私わたしの気持ちを聞いてくれました。  
ありのままの私わたしを受け入れようとしてくれたことが、  
嬉うれしかったです。

少しずつ里親さん<sup>わたし</sup>が私にとって大切な人になっていて、  
安心できる家があり、自分の帰りを待ってくれる人がいること、  
困ったときに頼れる大人<sup>たよ</sup>が近くにいてくれることが、  
とても心強く感じました。



色々なことがうまくいなくて落ち込んだり、  
母への怒りややるせない気持ちになったりすることは  
今もあるけど、  
どんなときも味方でいてくれた里親さんがいたから、  
頑張<sup>がんば</sup>ってこれました。



学費<sup>がくひ</sup>のこともあって美容師<sup>びようし</sup>になるという夢<sup>ゆめ</sup>を  
諦<sup>あきら</sup>めようとしたときにも、  
里親さんや児童相談所の人たちが親身になって  
奨学金<sup>しょうがくきん</sup>やお金の使い方について色々教えてくれました。



里親さんのところには3年半くらいいて、  
そこから中学校、高校と通い、  
今は里親さんの家の近くのアパートで一人暮らしをして、  
美容師の専門学校に通っています。  
今でも月に1度は里親さんのところで  
一緒に夕食を食べたりしています。



母にも時々会っています。  
喧嘩することもあります、  
以前より落ち着いた気持ちで話ができるようになりました。  
「美容師になったら髪を切ってね」と  
母も私の夢を応援してくれています。

里親さんは、

友人関係のこと、しゅうしょく就職のこと、お金のやりくりのこと、  
母のこと、様々ななや悩みや心配事の相談に乗ってくれる、  
たよ頼れるそんざい存在です。

これからも今までと変わらない関係が  
続いていったらいいなと思っています。



そして、里親がふ増え、

わたし私のような子ども時代を送っている子が、一人でも多く、  
家庭の中で大切にされるけいけん経験ができることを願っています。

## おわりに

都内には、虐待、親の病気や離婚、経済的理由等、さまざまな事情により家族と暮らすことのできない子どもが約4,000人います。里親制度とは、こうした子どもを家庭に迎え入れ養育する、子どものための制度です。

里親家庭にくる子どもは、生みの親や施設の職員等との別れなどの喪失体験を経験しています。子どもたちは、成長とともにその事実を受け入れていかなければなりません。「生まれてきてよかった」「自分は価値のある存在」と思える基本的な自尊感情を持てるようになるには、安全で安心な居場所と無条件でありのままの自分を受け入れてくれる大人の存在が不可欠です。

里親家庭において、安全で安心できる生活基盤が用意され、自分のことを大切にしてくれる「特別な大人」に出会い、愛される経験・認められる経験を積み重ねるなかで、子どもは自分の生い立ちを整理しながら受けとめ、自立に向かっていきます。

「子どもと里親の物語Ⅱ」は、里親家庭を巣立ち、夢に向かって頑張っている女の子の話です。「ありのままの自分を受け入れてもらう」ことがどれだけ子どもの支えになるのか、頼れる大人が身近にいることがどれだけ心強いことかを改めて考えながらつくった1冊です。

一人でも多くの方にこの物語が届き、家庭を必要とする子どもたちがいることを知ってもらいたい。そして、子どもたちがあたたかい家庭で健やかに育ち、その子らしく羽ばたいていくことのできる未来を、皆様とともにつくりたいことを願っています。

港区児童相談所 フォスタリングチームみなと  
(港区フォスタリング機関 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院)



※ フォスタリングチームみなとは、2021年4月の港区児童相談所開設に伴い、港区よりフォスタリング(里親養育包括支援)業務の委託を受けた社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院のフォスタリングチームです。児童相談所と連携し、日々、里親制度の普及啓発や里親家庭の支援に取り組んでいます。

※「子どもと里親の物語」は、複数の里親家庭の体験談・エピソードを参考に、フォスタリングチームみなとが作成したものです。



## 里親に関する情報はこちら

### 港区ホームページ

港区ホームページ内にある里親制度についての情報ページです。  
港区にお住まいの方を対象に毎月開催している「里親についての説明会」のご案内のほか、里親制度の概要やよくあるご質問などを掲載しています。

<https://www.city.minato.tokyo.jp/jidofukushi/lp.html>



### 港区児童相談所公式 Twitter

里親に関する情報を含む様々な投稿をしています。

港区 児童相談所 @minato\_jisou



### Tokyo 里親ナビ

東京都里親支援機関のウェブサイトです。  
実際に里親として子どもを養育している人の体験談などを読むことができます。

<http://www.tokyo-satooyanavi.com/>



## 問合せ・説明会申込みはこちら

港区児童相談所 フォスタリングチームみなと  
〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-11

里親相談ダイヤル 03-5962-6505  
8:30～18:00(土日・祝・12/29～1/3を除く)



フォスタリングチームみなと